降誕前節第 9 主日礼拝説教要旨(10 月 25 日)

『救いの約束』清瀬弘毅教師

マタイによる福音書 26:26-30

旧・新約聖書は、神と人間との間に結ばれた契約が、一本の柱のように貫かれております。

原始福音と呼ばれている、初めの救い
の約束から始まって、自然界の秩序と守り、人類の救済計画と、神の掟。人間が神に従う為に必要な訓練と導きを、詳細に書き記しています。

神と人間の間を取り次ぐ預言者の登場。王国の出現、そして、王国の没落。長い歴史を通して現わされた神の愛の深さ、広さ、忍耐と悲しみの姿が示されます。

やがて、暗い、神の沈黙の時代を経て、世界に、真の光、永遠の輝き、人類の救いのおとずれの鐘が鳴り響いた。神の独り子、イエス・キリストの到来であります。

律法によれば、血を流す事なしに人間の罪の赦しはあり得ない。その御言葉の成就として、キリストは、この世に来られました。

主の十字架と復活によって、神の救いの計画は完成されました。

これが、旧・新約聖書が伝えている Testament、神の遺言であり、キリストの遺言であります。